

令和6年度 八戸高専 自己点検・評価 外部評価結果

評価
5: 期待を上回って実施している
4: 十分に実施している
3: 実施している
2: 十分には実施していない
1: 実施していない

評価基準				令和6年度 点検・評価					評議員(外部評価委員)からの評点・コメント		
基準	No.	視点	観点	No.	R6根拠資料	R6状況	R6自己評価	改善を要する点	外部評価	コメント	
1. 教育の内部質保証システム	1-A	自己点検評価の実施と改善	(1) 自己点検・評価の基準や方法に関する継続的見直しが行われているか。	1-A-1-1	令和6年度第2回教育プログラム委員会議事録	教育プログラム委員会で自己点検評価の規準等について審議した結果、R6年度の自己点検・評価は現行基準に基づき実施することとした。またR6年度途中に組織改正を行い、R6年度以降の自己点検・評価は新設した自己点検・評価委員会が担当して実施することとした。なお第2回の同委員会において、次回以降の自己点検・評価に当たっては、認証評価基準の改正を踏まえて本校の基準を見直すこととした。	5	・自己点検・評価の充実と効率化を図るため、関係規則等の整理と見直しを行い、新設した自己点検・評価委員会を中心とする体制を整備した。(実施済み) ・R9年度に予定される次回の自己点検・評価に当たっては、認証評価基準の改正を踏まえて見直す必要がある。	4.5	前回の要改善点の状況が一覧化されているとよいかと思えます。 実施の成果と改善点が明確に示されている。今後もより良い教育の内部質保証システムの継続が見込まれる。 評議員会における報告、根拠資料等から適正に実施されていると判断した。	
				1-A-1-2	R06_第2回自己点検・評価委員会記録						
			(2) 学生、保護者、教員、卒業生、企業等の意見聴取が行われ、自己点検評価に反映されているか。	1-A-2-1	保護者懇談会事前質問への回答	・保護者懇談会を通じて出された要望等は、取りまとめて学内グループウェアで全教員で共有し、保護者には保護者との連絡アプリ・さくら連絡網を通じて回答している。 ・保護者懇談会で寄せられた学校への要望等や懇談内容をまとめ、教員会議で全教員で共有している。 ・卒業後5年程度の卒業生・修了生、および過去5年の就職先企業へのアンケートを3年に1度、実施し、結果を自己点検・評価に反映している。	4				
				1-A-2-2	保護者懇談会実施報告書まとめ						
				1-A-2-3	卒業生・修了生へのアンケート結果(2023年度)						
				1-A-2-4	企業・団体等のアンケート結果(2023年度実施)						
			(3) 結果が改善に結びついているか。	1-A-3-1	R6基礎学習セミナー実施要項	前回(R3年度実施)の自己点検評価において改善が必要と認められた点について、以下のように改善に結びついた。 ・基礎学力不足の学生支援の強化を図るため、低学年で数学基礎セミナーの実施要項と実施要領を策定した。 ・留学生チューターについて、チューターとの個別面談を通じて留学生との相性やチューター自身の勉学への取り組み状況などを確認できるよう改善した(3-B-(3)に記載)。 ・学寮W棟の雨漏り対策を実施した(3-B-(7)に記載)。 ・夏学期のみ行っていた成績の分析を毎学期実施するようにしたほか、入学区分別の分析も行うよう改善した(7-A-(1)に記載)。 この他、前回の自己点検評価以降に生じた課題等に対し、カリキュラムや自主探究の実施方法などについて改善が図られている。	4	ポスター発表会場の変更が表彰に影響があったかどうかの検証をしていく必要がある。 基礎学力が不足している低学年生に対し、基礎学習セミナーの実施体制を改善しているが、改善状況を見ながら実施方法の検討をいしていく必要がある。			
				1-A-3-2	R6基礎学習セミナー実施要領						
				1-A-3-3	R4カリキュラム改正にかかる新旧対照表						
				1-A-3-4	R5カリキュラム改正にかかる新旧対照表						
				1-A-3-5	R5自主探究コーディネーター会議議事録						
	1-B	年度計画・行動計画の実施	(1) 年度計画の実施状況が点検されているか。	1-B-1-1	R5年度計画・実績報告	年度計画の各項目に対する実施状況を点検して実績を取りまとめ、高専機構本部へ報告するとともに運営委員会での確認を経て教員会議資料として配付し、全教員に周知している。	5				
			(2) 各委員会等の行動計画に対する実施状況が点検されているか。	1-B-2-1	R5行動計画とその取組結果報告書	各委員会組織において行動計画に対する実施状況を点検し、結果報告書として取りまとめている。運営委員会での確認を経て、教員会議資料として配付し、全教員に周知している。また内部データに関する部分を除きホームページに公開している。	5				
	1-C	3ポリシーの見直し	(1) 3ポリシーが社会の状況の変化等に応じて適宜見直されているか。	1-C-1-1	令和5年度第1回教育プログラム委員会(オンライン会議)	教育プログラム委員会において、毎年度3ポリシーの確認と見直しを行い、改善を行っている。3ポリシーは本校ホームページ、学校要覧、学生便覧で、公表している。	5				
				1-C-1-2	令和6年度第2回教育プログラム委員会(メール会議)						
				1-C-1-3	八戸高専ホームページ 三つの方針						
	2. 教育組織・教員・教育支援者等	2-A	教員の配置	(1) 準学士課程・専攻科課程における一般、専門の教員が適切に配置されているか。	2-A-1-1	教員一覧(2024学校要覧)	準学士課程・専攻科課程の一般科目、専門科目を担当する教員が専門分野ごとに配置されており、外国籍の教員も在籍している。電気情報工学コースの教員が欠員しているが、公募が行われている。	4		4	教職員の残業時間に留意しながら頑張ってください 良好と認められる。 根拠資料等から適正に実施されていると判断した。 教員の選考や昇任に関して、「教育活動」の基準が他に比べて、やや具体性に欠けており、今後改善(の検討)が望まれる。 ティーチング・ポートフォリオや授業アンケート結果等を有効利用して教育改善を継続的に実施することが望ましい。
					2-A-1-2	在籍教員数(2024学校要覧)					
		2-B	教員の採用・昇任	(1) 教員の採用や昇任に関する基準が適切に運用されているか。	2-B-1-1	教員選考規則	教員の採用や昇任に関する基準が定められている。第一次選考における教育・研究業績等の評価、および二次選考面接における模擬授業や英語での研究内容説明等により、基準に沿った選考が行われている。	4			
					2-B-1-2	教員の昇任基準					
2-B-1-3					教員選考一覧表書式						
2-B-1-4					教員選考委員会の開催通知例(2次選考)						
2-C		FD	(1) FD活動が実施され、改善に結びついているか。	2-C-1-1	R5年度教員対象のFD・研修等の実施・参加状況	FDの活性化を図るため、各委員会等の行動計画提出時に、FDの開催計画についても記載できるようにしている。オープン授業推進週間の授業相互参観などのFDも実施され各教員が授業改善の参考になっている。	3	外部機関主催の研修への参加を含めFD・SDが実施されているが、学校全体としての状況を把握し改善につなげる体制の強化が必要である。			
				2-C-1-2	R5年度事務職員・技術職員対象のSD・研修等の実施・参加状況						
				2-C-1-3	令和6年度行動計画						
3. 施設・設備		3-A	施設・設備	(1) 学校の施設・設備が適切な安全・衛生管理の下に活用されているか。	3-A-1-1	安全衛生専門委員会議事録例(R6年9月・抜粋)	安全衛生管理の強化と法令への適合を図るため、R5年6月より衛生管理者資格を有する教職員による毎週1回以上の職場巡視を開始した。R5年12月からは協力者を含めた巡視班による計画的な巡視体制を整備し、R6年5月以降は教室や実験室の内部も巡視対象に加えた。巡視結果は毎月開催する安全衛生専門委員会で確認し、指摘事項については管理者に改善を促している。 教育・研究に必要な設備については所管の係において使用簿や鍵の授受が行われており、適切に管理されている。	5			
	3-A-1-2				主要設備使用簿(稼動状況)						
	3-A-1-3				R6基本教室使用表						
	3-A-1-4				教室鍵貸出簿(令和6年9月-10月)						
	3-A-1-5				会議室利用状況(2024年9月)						
	(2) ICT環境が十分なセキュリティ管理の下に整備され、活用されているか。			3-A-2-1	サイバーセキュリティポリシー基本方針	ICT使用環境として、授業ではパソコン室を利用でき、同室の管理は利用簿により管理される。、時間外は図書室のパソコンが利用でき、無線LAN環境が学内に提供されている。セキュリティについては情報セキュリティポリシーが制定されて運用されており、適切と評価できる。	5				
				3-A-2-2	サイバーセキュリティポリシー対策規則						
				3-A-2-3	サイバーセキュリティ管理規程						
				3-A-2-4	無線LAN学外者利用要項						
				3-A-2-5	パソコン室利用状況、図書館PC利用状況						
	(3) 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が系統的に収集、整理され、有効に活用されているか。			3-A-3-1	図書館蔵書状況	図書委員会において系統的に収集が行われている。また、毎年、各種資料の貸出数・入館数を統計的に把握している。	4				
				3-A-3-2	図書貸し出し数						
				3-A-3-3	図書館入館者数						
			(1) 新入生(編入、留学含む)に対し、履修指導、設備等利用ガイダンス等が実施されているか。	3-B-1-1	入学式のタイムテーブル	外国からの留学生、工業高校からの編入学生のためにオリエンテーションを行っている。また、原級留置となった学生のために履修指導のためのガイダンスを実施している。 R7年度以降の入学生向けに、教務委員会、専攻科委員会、国際交流室で支援要項を策定した。	5				
				3-B-1-2	入学者研修会実施要領						
				3-B-1-3	編入学予定者のオリエンテーション実施要項						
				3-B-1-4	留学生履修科目確認表						

3. 学習環境 及び学生支援 等	3-B	学生支援	(2) 学生の自主的学習に対する相談、助言体制が機能しているか。	3-B-2-1	オフィスアワー一覧	各教員のオフィスアワーを学期ごとに設定し、学級担任による個別面談を全学年で実施しており面談シートを活用して学習や生活、進学相談などに対応している。また、学習の相談においては、数学寺子屋やグローバルラーニングセンターによる英語補講(R5年度まで)などの多様なプログラムを用意している。留学生に対しては日本人学生がサポートするチューター制度を用意している。さらに、学生間の学習支援として、高学年生が低学年生に対して学習支援をするメンター制度と数学基礎セミナーが実施されており多くの学生が制度を活用している。	5	
				3-B-2-2	学級担任の個別面談			
				3-B-2-3	数学寺子屋開催要項			
				3-B-2-4	R5年度GLCの活動一覧			
				3-B-2-5	留学生チューター制度実施要項			
				3-B-2-6	メンター制度実施フロー・要項・要領			
				3-B-2-7	数学基礎セミナー実施フロー・要項・要領			
				3-B-2-8	キャリアセンター関連学習支援事業実施状況(R5)			
			(3) 留学生、編入生、障害のある学生への学習・生活支援が行われているか。	3-B-3-1	外国人留学生規則	編入学者に対しては入学前に添削学習指導を行うなどの支援が行われている。国際交流事業「タイ政府奨学金留学生受入れ事業」への対応として、特命教員(日本語教員・理系サポート教員)を1名ずつ配置し、低学年留学生の日本語授業・科目授業の支援を継続的に実施している。また、このような日常的支援に加え、R3年度以降は「低学年留学生対応ワーキンググループ」を発足し、主に低学年留学生の学習・生活支援のほか、特にタイ政府奨学金留学生を想定した日本語学習プログラム案を編成している。留学生にはチューターを配置している。R3年度の自己点検・評価結果を踏まえ、留学生との相性やチューター自身の勉学への取り組み状況などの確認を個別面談を通じて行うよう改善している。	5	
				3-B-3-2	低学年留学生対応ワーキンググループの組織と活動			
				3-B-3-3	留学生面談日程			
				3-B-3-4	タイ政府奨学金留学生日本語学習プログラム			
				3-B-3-5	留学生チューター業務実施確認表			
				3-B-3-6	留学生チューター振り返り会連絡			
			(4) 学生の経済面や健康面に対する相談体制は機能しているか。	3-B-4-1	学生相談・サポート体制	公認心理師や臨床心理士、スクールソーシャルワーカーの相談も受けられる体制を整えた相談室や保健室が整備され利用されている。	5	
				3-B-4-2	相談室利用件数			
				3-B-4-3	保健室来室者数			
				3-B-4-4	奨学金利用状況			
			(5) キャリア教育、進路指導体制は機能しているか。	3-B-5-1	キャリア教育・学習支援センター規則	キャリア教育・学習支援センターを設置し、その中に各コース長から構成される就職支援委員会を配置して、学校全体でキャリア支援を行う体制としている。また、四季報などの就職および進学関係の書籍の最新版は図書館に配備し、本校に届いている求人情報は就職情報検索システムにおいて学生が自由に閲覧できるようにになっている。学生に対するキャリアに関する説明会は各学年に対して年度初めに実施し、その他進路に関する様々な情報を年間通して学外の講師を招いた講演会により提供している。その情報や内容は教員会議や学内のメールシステムにて教職員と共有している。そして、進路参考資料に、卒業生の進路情報の分析データや学生の進路活動の指針を記載し、全学生・全教員に配付することでそれらの情報をフィードバックし、進路活動における学校全体の方針の共有を図っている。	5	
				3-B-5-2	就職支援委員会規則			
				3-B-5-3	R5学習支援購入希望図書一覧			
				3-B-5-4	就職情報検索システム topページ			
				3-B-5-5	R5キャリア関連説明会・報告会(資料赤枠内)			
				3-B-5-6	キャリア関連事業学内掲示板への発信例			
				3-B-5-7	R6進路参考資料			
			(6) 課外活動等に対する支援体制は有効に機能しているか。	3-B-6-1	顧問一覧	全ての教員が課外活動の顧問を務めており、学生の課外活動に対する支援が有効に機能している。また、各種大会に参加している一方、課外活動指導員など外部人材を積極的に活用した支援体制が構築されている。	5	
				3-B-6-2	各種大会参加状況(各種コンテストR5年度実績)			
				3-B-6-3	各種大会参加状況(スポーツR5年度実績)			
				3-B-6-4	課外活動指導員実績一覧			
			(7) 学寮が生活及び勉学の場として整備され、有効に機能しているか。	3-B-7-1	R6秋・冬部屋(居室)配置図	学寮は、一般棟として女子棟(2棟)、男子棟(2棟)があり、浴場、洗濯室、補食室、談話室、自習室等が配置されている。点呼や、食事時間、学習時間、消灯時間等の日課が定められており、生活及び勉学の場として整備されている。国際寮は3棟あり、令和元年度に改修後のE棟を国際寮としての運用を開始し、令和3年度にI棟、令和4年度にはN棟が混住型国際寮として新築された。なお、国際寮の増加に伴い、令和4年度に運営・管理体制の大幅見直しを行った。令和6年度末には4棟目となる混住型国際寮の新棟が完成予定である。令和5年5月の新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、感染症対策として閉鎖していた談話室の開放を行うほか、祭祭等の各種祭行事の実施など寮生活の活動が活発化している。令和6年度当初の寮生数は、314名(男子228名、女子86名)である。令和4年4月からI棟とE棟の混住型国際寮で新しい寮の運営体制が試行され、N棟新築後、令和4年11月から全寮で展開した。「ユニット制、新しい門限・点呼時刻及び点呼方式等」について、現在に至るまで安定的な運用が行われている。施設面では、雨漏り対応として、令和3年度にA棟、令和5年度にW棟の屋上防水修繕を実施済である。	4	施設面で、一般棟(AWSB棟)では、ライフラインを中心に設備の老朽化が著しく、配管の腐食・漏水等が発生しており、各所修繕対応が喫緊の課題である。
				3-B-7-2	学寮日課表			
				3-B-7-3	令和6年度寮生数調			
				3-B-7-4	R5行動計画取組結果(寮務委員会)			
				3-B-7-5	R5自習室等利用状況			
4-A	財務		(1) 学校の目的に沿った教育研究活動を遂行できるだけの財務基盤を有しているか。	4-A-1-1	貸借対照表(過去5年間)	本校の目的に沿った教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行するために必要な校地、校舎等の資産を保有し、運営費交付金、授業料、入学科等の経常的な収入を確保している。	4	
				4-A-1-2	損益計算書(過去5年間)			
				4-A-1-3	キャッシュフロー計算書(R1～R5)			
				4-A-1-4	経常収入(R1～R5)			
				4-A-1-5	施設の概要(2024学校要覧)			
			(2) 学校の目的を達成するための活動の財務上の基盤として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	4-A-2-1	予算関連計画(令和6年度)	予算に係る計画については、企画室会議ならびに運営委員会において学内予算配分方針(案)を審議のうえ決定し、その方針により適正に配分している。また、教員会議において報告するとともに会議資料等についても学内グループウェアの掲示板に掲示している。	4	
				4-A-2-2	令和6年度学内予算配分方針(案)			
				4-A-2-3	令和6年度学内予算配分方針			
			(3) 学校の目的を達成するため、教育研究活動に対する資源配分を、学校として適切に行う体制が整備され、実際の予算配分が行われているか。	4-A-3-1	令和6年度学内予算書(案)	高専機構から通知される事業年度ごとの収支予算額に基づき、学内予算配分方針により執行計画を策定し、企画室会議ならびに運営委員会で審議・承認を得ることとしている。また、校長裁量経費を設け、より柔軟な予算執行を図っている。なお、執行計画については、教員会議において報告するとともに会議資料等についても学内グループウェアの掲示板に掲示している。	4	
				4-A-3-2	令和5年度校長裁量経費内訳書			
				4-A-3-3	予算関連規程			
				4-A-3-4	予算の審議			
				4-A-3-5	令和6年度学内予算書			
			(4) 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。また、財務に係る監査等が適正に行われているか。	4-A-4-1	決算関連規程	高専機構として、ひとつの財務会計システムを構築しており、年度末決算後、このシステムにより財務諸表等を作成し、高専機構ホームページで公開している。また、監査関係については、令和4年度に監査法人による監査を受検している。また、他高専の職員による高専相互会計内部監査、学内の会計内部監査については毎年度実施している。	4	
				4-A-4-2	財務諸表等(高専機構)			
				4-A-4-3	会計内部監査規則			
				4-A-4-4	各種監査等報告書			
				4-B-1-1	組織・運営関係規則一覧(規則目次)	管理運営の諸規程は、八戸高専組織運営規則を基本に、各種委員会等規則を制定している。また、各委員会においては定例会議、あるいは必要に応じて開催しており、事務職員が委員や幹事として参画している。		
				4-B-1-2	校務運営機構図			
				4-B-1-3	校務分担(令和6年度)R060415現在			

4. 財務基盤 及び管理運営	4-B	管理運営	(1) 管理運営の諸規程が整備され、各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	4-B-1-4	組織運営規則		4		4	
				4-B-1-5	事務組織規則					
				4-B-1-6	事務分掌規則					
				4-B-1-7	令和5年度学内主要会議開催状況一覧					
				4-B-1-8	令和5年度学内主要会議議事録					
			(2) 危機管理を含む安全管理体制が整備されているか。	4-B-2-1	危機管理規則	八戸高専危機管理規則を制定し危機管理に係る体制を整備している。また危機管理マニュアルを策定するとともに消防訓練、安否確認訓練、AED講習会などを実施して緊急時に備えている。	4			
				4-B-2-2	危機管理マニュアル					
				4-B-2-3	R6年度消防訓練実施計画					
				4-B-2-4	R5年度災害時安否確認訓練実施要項					
				4-B-2-5	R6年度AED講習会要項					
			(3) 外部資金を積極的に受入れる取組が行われているか。	4-B-3-1	外部資金受入状況 R1-R5_過去5年分	毎月の運営委員会と教員会議および校内掲示板(ガルーン)において外部資金公募情報および外部資金受入状況を周知するとともに、外部資金の積極的な獲得を依頼している。	4			
				4-B-3-2	外部資金公募情報					
				4-B-3-3	外部資金受入決定状況 R6.9.30時点					
			(4) 外部の教育資源が積極的に活用されているか。	4-B-4-1	協定締結状況_2024学校要覧_抜粋	本校では学校の目的を達成するために、国内外の高等教育機関や高等学校、地域企業、同窓会など、多くの外部教育資源を積極的に活用している。	4			
				4-B-4-2	地域との連携					
			(5) 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。	4-B-5-1	独立行政法人国立高等専門学校機構職員人事評価実施要領	高専機構本部が実施する研修会のほか、国立大学法人等の研修、国、地方自治体等が主催する研修等に職員を派遣し、職務遂行能力の向上を図っている。また、職員の能力及び業務遂行意欲の向上、組織の業務運営の一層の活性化を図ることを目的に、毎年度職員人事評価を実施している。	4			
				4-B-5-2	東北地区国立高等専門学校事務職員合同研修実施要項					
				4-B-5-3	R5年度事務職員・技術職員対象のSD・研修等の実施・参加状況					
	4-C	情報の提供	(1) 学校における教育研究活動等の状況についての情報が公表されているか。	4-C-1-1	八戸高専HPコンテンツ	本校における教育研究活動等の状況については、ホームページのほか、刊行物として学校要覧、学校案内、シラバス、募集要項、高専だよりなどを発行して公表している。これらの資料はホームページ上にも公開しているほか、Youtubeに動画コンテンツを掲載し、広く一般社会に対して情報発信を行っている。	4			
				4-C-1-2	八戸高専Youtubeチャンネル					
5. 準学士課程の教育課程・方法	5-A	教育課程の編成と実施	(1) CPIに基づくカリキュラムとなっているか。	5-A-1-1	本科のディプロマ・ポリシー	本校のDPとCPIは各項目が1対1で対応させており、各科目との対応はDPで表記している。カリキュラム・マップ及びカリキュラムツリーからわかるように、本校のカリキュラムでは各DPIに対応した科目が適切に配置され、CPIに掲げられた構成要素を満足するように体系的にカリキュラムが編成されている。	5			
				5-A-1-2	本科のカリキュラム・ポリシー					
				5-A-1-3	R5以降入学者カリキュラムマップ					
				5-A-1-4	R5以降入学者カリキュラムツリー					
			(2) カリキュラムには、学生、社会のニーズが反映されているか。	5-A-2-1	R4カリキュラム改正にかかる新旧対照表	数理データサイエンスへの社会的ニーズの高まりに対応すべく、R4年度に数理データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)を新設し、5年生に専門科目「数理データサイエンス」を開設した。R5年度には、英語教育強化のため4年生の「産業システム工学セミナー」を「集中英語演習Ⅳ」に変更するとともに5年生に一般科目「英語演習C」を開設するなど、学生や社会のニーズをカリキュラムに反映させている。さらに本校の特徴として地域貢献型の人材育成のための科目や、学生が自ら志向するテーマを設定して課題解決に取り組む自主探究を導入している。	4			
				5-A-2-2	R5カリキュラム改正にかかる新旧対照表					
				5-A-2-3	地域志向科目一覧					
				5-A-2-4	自主探究テーマ一覧(R5.1~3年)					
				5-A-2-5	自主探究テーマ一覧(R5.4~5年)					
			(3) 創造力や実践力を育む教育が行われているか。	5-A-3-1	学生が創造力を発揮したことによる成果がわかる資料	自主探究・校外実習・創成科目および卒業研究など1年生から5年生まで切れ目のない創造力・実践力を養う取り組みが行われている。令和2年度入学生が4年生となった令和5年度より校外実習が共通専門選択科目として正規のカリキュラムに含まれ、学生がインターンシップに行きやすい環境が整った。	5			
				5-A-3-2	学生が実践力を発揮したことによる成果がわかる資料					
				5-A-3-3	校外実習シラバス					
				5-A-3-4	校外実習一覧					
			(4) 異文化を理解する姿勢を育む国際交流活動が行われているか。	5-A-4-1	国際交流派遣しおり(R6シンガポール、モンゴル)	シンガポール、モンゴル、中国、フランス、フィンランドなど多様な海外研修プログラムを用意している。新型コロナウイルスの影響で停止していた派遣もR6年度から再開でき、R5年度は延べ68名の学生が参加し、R6年度も同49名が参加予定である。また国際寮や国際自主探究、タイ政府奨学生、タイ高専学生受け入れ事業など、さらなる成長が見込まれる特色ある取り組みが行われている。	5			
				5-A-4-2	R05年度海外派遣・受け入れ状況_R5年度第11回教員会議資料より					
				5-A-4-3	R06年度海外派遣・受け入れ状況_R6年度第8回教員会議資料より					
	5-B	授業形態・指導法	(1) 学習指導上の工夫は行われているか。	5-B-1-1	対話・討論型授業(例)	アクティブラーニングを取り入れた授業(数理演習)やフィールドワーク地域活動を通じた学習活動、ICTを取り入れた授業(情報処理)など工夫された授業が行われている。また、基礎学力不足の学生に対して高学年学生がTAを務める基礎数学セミナーを実施するなど、授業の理解をサポートしている。さらに自主探究活動に全学年をあげて取り組んでおり、1~3年生では自主探究コーディネーターが年間を通じた活動を支援、4.5年生の高学年生がファシリテティングアワーで学生のサポートを行っている。アントレプレナーシップ醸成の一端を担う自主探究においては、スタートアップ教育の拠点としてイノベーションの整備を行い、全学生が自由に利用できる体制を整えた。	5			
				5-B-1-2	フィールド型授業の実施状況(例)					
				5-B-1-3	情報機器を活用した教育の実施状況(例)					
				5-B-1-4	基礎学力不足の学生に対する配慮					
				5-B-1-5	基礎学力不足の学生に対する配慮					
				5-B-1-6	学科横断組織「系」による授業(例)					
				5-B-1-7	自主探究の実施状況					
				5-B-1-8	自主探究の実施状況					
				5-B-1-9	自主探究発表会実施要項					
				5-B-1-10	イノベーションハブの概要					
			(2) CPIに沿って適切なシラバスが作成され、活用されているか。	5-B-2-1	シラバスとして必要な項目が記載されていることがわかる資料	シラバスは作成後の点検でカリキュラムの設計に適合するかを点検し、どのDPIに適合するかも点検している。シラバスの活用についても教員による説明が行われ、学生の認知度も高いことが授業評価アンケートからも確認でき、適切である。	5			
				5-B-2-2	シラバス記載内容の自己チェックリスト					
			(3) 学修単位科目の自学自習時間の実質化に向けた取り組みが行われているか。	5-B-3-1	シラバスで履修時間45時間の明示がわかる資料	自学自習時間は成績エビデンスに集約され、学校として把握している。その実質化では「高専での学びの状況」に関する調査や答案返却時に学生に対して行う授業評価アンケートでの自己申告による把握などの取り組みが行われている。	4			「高専での学びの状況」に関する調査で学生の自学自習時間の合計については把握できているが、各学習単位科目ごとの自学自習時間の定量的な把握も望まれる。
				5-B-3-2	自学自習リスト(例)					
				5-B-3-3	授業外学修の時間の把握状況がわかる資料					
			(1) 成績評価基準、単位認定基準、卒業認定基準の周知が図られているか。	5-C-1-1	成績評価や単位認定に関する基準がわかる資料	成績評価基準等については、シラバス、学生便覧、成績通知表に記載して周知している。また1~3学年生対象のCBT実施時に、本校の成績評価基準等を示して確認させる方式のアンケートを実施することにより、学生の認知状況を把握している。	5			
				5-C-1-2	学生便覧で周知していることがわかる資料					
				5-C-1-3	八戸高専の教育の方針と内容についての確認及び学習に関するアンケート					
				5-C-1-4	新入生ガイダンス資料					

	5-C	成績評価、単位・卒業認定	(2) 成績評価は適切に行われているか。 5-C-2-1 成績一覧表がシラバスにもとづいていることがわかる資料(例) 5-C-2-2 シラバスに基づいて評価されていることがわかる資料(例) 5-C-2-3 成績評価結果に関する異議申立の規定がわかる資料 5-C-2-4 成績判定資料がわかる資料 5-C-3-1 成績評価や単位認定に関する基準がわかる資料 5-C-3-2 進級・卒業が基準に従って適切に行われていることがわかる資料	5 各科目の成績は科目担当教員がシラバスに記載した方法に基づいて評価しており、そのエビデンスを自己点検・評価委員会の点検部会が点検している。成績評価の結果は学生に通知し、異議申し立ての機会を設けている。異議の申し立てがあった場合、担当教員は再度確認して当該学生に説明し、誤りがあった場合には訂正を行う。異議申し立ての機会を経た成績は欠課時数と共に総合成績表にまとめ、成績判定会議を開催して単位の認定を行っている。以上のことから、成績評価は適切に行われているといえる。 5 学生からの異議申し立ての機会を経て単位認定された最終成績を基に、通算修得単位数一覧表、必修科目一覧表、進級・卒業判定資料を作成し、成績判定会議を開催して進級・卒業認定基準にしたがって厳正に判定を行っている。以上のことから、進級判定および修了認定が適切に行われているといえる。			
6. 学生の受け入れ	6-A	APIに沿った学生の受入れ	(1) APIに沿った入学者選抜方法となっているか。 6-A-1-1 R6入学者募集要項 6-A-1-2 R7入学者選考基準：推薦・学力・帰国子女 6-A-1-3 R7入学者選考基準：国際的エンジニア 6-A-1-4 R7入学者選考基準：4 年次編入 6-A-1-5 R6推薦面接試験における留意事項及び質問事項例 6-A-1-6 R6推薦面接採点表(記入例) 6-A-1-7 R7入試選抜資料：国際的エンジニア 6-A-1-8 R6入試選抜資料：推薦 6-A-1-9 R6入学者選抜資料：学力試験成績一覧表 6-A-1-10 R6入学者選抜資料：4年次編入 (2) 入学者がAPIに沿っているか、入試方法への反映はなされているか。 6-A-2-1 入学者選抜委員会規則 6-A-2-2 入学動機アンケート集計結果 6-A-2-3 入学者選抜委員会議事要旨 (3) 増募対策は効果的に行われているか。 6-A-3-1 入試委員会行動計画報告書 6-A-3-2 一日体験入学アンケート結果 (4) 入学定員に照らして入学者数は適正か。 6-A-4-1 学校要覧	4 入学者募集要項に、本校の入学者受け入れ方針(AP)を示したうえで、4つある選抜(国際的エンジニア育成特別選抜・推薦選抜・学力選抜・帰国子女特別選抜)では、基礎学力として英語・数学・理科を重要視していることを共通で示したうえで、各選抜ではAPのうちのどの項目を特に重要視しているのか方針を明記している。以上のことから、方針に適した選抜方法を行っている。 4 アンケート結果から、体験入学に参加して就職や進学の実績等から自分の将来の夢を実現できると考え入学する学生が多く、約65%が本校の理工系の教育内容[AP2]と技術を通じた社会貢献[AP4]に興味を持ち、約75%がものづくり[AP3]に興味を持っていると回答し、入学者はAPIに沿って進路選択を行っていると同評価できる。このため、従来どおりの入学者選抜方法を踏襲していくことになった。 4 最近の入学者数を参考に中学校をランク分けし、中学校訪問・地区入試懇談会・中学校での高校説明会を行っている。入試懇談会は県内4個所で実施し、中学校は34校を訪問した。令和5年度からは、コロナ禍が収束したため対面で開催している。一日体験入学におけるアンケート結果からは、好意的な感想・意見が多かった。参加した生徒のうち96.5%が本校を受験したい、保護者の97.6%が受験させたいという結果であった。 5 直近5年間の平均での定員充足率は102.3%、令和6年度は107.5%であり、適正といえる。			津軽地方からの志願者を増やすことが課題として挙げられているが、データサイエンス分野や半導体分野など、内陸部のハイテク産業に寄与する高度専門人材の育成に向け、大学・大学院とのさらなる連携強化も視野に入れたい。 評議員会における報告、根拠資料等から適正に実施されていると判断した。
7. 学習・教育の成果	7-A	学習・教育の成果	(1) 成績評価、卒業認定の結果から、DPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 7-A-1-1 DPの各項目と卒業認定基準の対応表 7-A-1-2 DP1、DP6に対応する卒業認定基準がわかる資料 7-A-1-3 DP2、DP3に対応する卒業認定基準がわかる資料 7-A-1-4 DP4に対応する卒業認定基準がわかる資料 7-A-1-5 DP5に対応する卒業認定基準がわかる資料 7-A-1-6 令和6年度春学期・夏学期の成績推移 7-A-1-7 成績判定資料がわかる資料 7-A-1-8 進級・卒業が基準に従って適切に行われていることがわかる資料 7-A-1-9 審議対象科目 7-A-1-10 必修科目群 7-A-1-11 地域志向科目一覧 (2) 卒業時の学生、卒業後5年程度の卒業生、就職先等の意見聴取の結果から、学習・教育の成果が認められるか。 7-A-2-1 令和3年度から5年度卒業生の達成度記録簿集計 7-A-2-2 卒業生・修了生のアンケート結果(2023年度実施) 7-A-2-3 企業・団体等のアンケート結果(2023年度実施) (3) 最近5年間の就職率、進学率から判断して、学習・教育の成果が認められるか。 7-A-3-1 就職状況 7-A-3-2 進学状況 (4) 就職先、進学先は養成しようとする人材像に適したものとなっているか。 7-A-3-1 就職状況 7-A-3-2 進学状況	4 卒業生が各DPを達成していることは、DP1は一般科目の修得単位数から、DP2とDP3は専門科目の審議対象科目や必修科目群の規定から、DP4は主に自主探究の進級基準から、DP5は地域志向科目の設定から、DP6は自主探究・卒研・英語科目の修得によって、判定できる。卒業判定における単位修得・原級留置の状況から、ほとんど全ての卒業生が概ね単位を修得して卒業できており、学習・教育の成果が認められる。また、学生の達成度の自己評価からも卒業時に十分達成できたことが認められる。 5 卒業後5年程度の卒業生および就職先等の意見聴取は3年に一度行っており、直近では2023年度に実施している。卒業生アンケートの結果は、八戸高専を卒業してよかったという学生が64%であり、81%の学生が本校で学習した内容が現在も役立っていると回答としている。また、就職先からの回答では、卒業生の専門的知識・技術力は高いかという問いに、83%の企業が「高い」「少し高い」と回答している。これらの結果から、本校における学習の成果が認められるといえる。 5 令和6年3月において、本科の就職率は約51%、進学率約44%、自営等その他約5%である。進学希望から就職希望に変更した学生も含め、就職希望者の就職率は100%である。これらのデータから、本校での学習の成果が認められる。 5 進学先の多くは国立理工系大学であり、就職先は製造業が多い。これらの進学先と就職先は、養成しようとしている人材像に適していると言える。			R5年度のKIS受賞において、必修科目の意味が分かりにくく、卒業生全員がDPを達成できているかの確認が難しいとの指摘を受けており、速やかに制度の見直しと改善が必要である。
			(1) CPIに基づくカリキュラムとなっているか。 8-A-1-1 専攻科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー 8-A-1-2 DPごとの科目のカリキュラムマップおよびカリキュラム流れ図 (2) CPIに照らして講義、演習、実験、実習等のバランスが適切であり、学習指導上の工夫は行われているか。 8-A-2-1 DPと授業形態(講義、演習、実験・実習、特別研究)との対応とバランス 8-A-2-2 アクティブラーニング活用授業等の例 8-A-2-3 地域と連携した教育(ED等)の状況	5 CPIに基づき、授業科目を学年ごとに適切に配置し、体系的に編成している。なお、DP各項目とCP各項目が1対1で対応しているため、根拠資料ではDPで表記している。 5 アクティブラーニングを利用した授業(総合英語A)や地域課題に取り組む授業(EDや特別研究)を取り入れている。DP別および各授業形態(講義、演習、実験・実習、特別研究)別の単位配分においても適切なバランスがとれている。			良好と認められる。 成果の周知は広くされており八戸高専ブランドが確立していると実感している。 根拠資料等から適正に実施されていると判断した。

8. 専攻科の教育活動の状況	8-A	専攻科教育課程の編成・学習・研究指導・成績・修了認定	(3) CPIに掲げる国際的な発表・討議力、異文化理解を育むための国際交流活動は行われているか。	8-A-3-1	海外派遣者リスト	海外研修を最大6カ月可能としている。令和5年度は22名中11名の学生が海外研修を経験している。また、特別研究の最終発表では全員が英語発表を行っている。さらに、海外での国際会議における英語発表を推奨している。	5	4.7	
			8-A-3-2	専攻科学外研修報告会プログラム					
			(4) CPIに基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか。	8-A-4-1	一般科目・専攻共通科目一覧表	DP(OP)の編成方針に基づき、一般および専攻共通科目を設定している。また、特別研究の指導体制を整備し、さらに各種国内外の発表会等を通じて、解決能力育成に努めている。	5		
			8-A-4-2	特別研究・指導教員一覧表					
			(5) 成績評価・単位認定基準および修了認定基準がDPIにしたがって策定され学生に周知されているか。また成績評価・単位認定および修了認定が適切に実施されているか。	8-A-5-1	専攻科授業科目の履修等に関する規則第9条	観点8-A-(1)に示した通り、専攻科のカリキュラムはDPに基づき適切に配置されており、修了認定基準を全て満足することにより自動的に全てのDPを満たすように設計されている。成績評価・単位認定基準および修了認定基準については、入学時及び2学年開始時のガイダンスで学生に周知している。各科目の成績は科目担当教員がシラバスに記載した方法に基づいて評価しており、そのエビデンスを自己点検・評価委員会の点検部会が点検している。成績評価の結果は学生に通知し、異議申し立ての機会を設けている。異議申し立ての機会を経た成績一覧表を基に単位認定・修了判定会議を開催し、単位認定及び課程修了の判定を行っている。以上のことから、成績判定および修了認定が適切に実施されていると言える。	5		
				8-A-5-2	ガイダンス実施要項				
				8-A-5-3	ガイダンス資料(3つのポリシーと専攻科修了要件の部分の抜粋)				
				8-A-5-4	成績評価の方法を明記したシラバス(例)				
				8-A-5-5	シラバス記載通りの方法で評価された成績一覧表(例)				
				8-A-5-6	異議申し立てに関する学生向けメール				
	8-A-5-7	成績評価・単位認定状況がわかる資料							
	8-A-5-8	修了判定会議において基準に基づき修了認定していることがわかる資料							
	8-B	APIに沿った専攻科学生の受入れ	(1) 専攻科APIに沿って適切な入学者選抜方法が採用され、実際の学生受入れが適切に実施されているか。	8-B-1-1	入学者募集要項	科学技術の重要性や多角的視野を有し、多様な価値観理解に意欲のある学生を受け入れられるようにAPを周知し、推薦と学力選抜において面接等で確認している。また、本科卒業前に専攻科入学予定学生に対する説明会を実施して学位の取得、修了の要件、学生の諸心得等の説明を行っている。	5		
				8-B-1-2	専攻科進学予定学生の説明会案内				
			(2) APIに沿った入学者を受け入れているかどうかを検証する取り組みが行われており、その結果が入学者選抜の改善に役立てられているか。	8-B-2-1	自己アピール文	推薦・学力選抜試験の提出書類の一つである「自己アピール文」の記載内容および面接によってAPI(技術の重要性)からAP5(多様な価値観の意欲)を把握している。	4		入学生がAPの各項目に適合しているかを、入学後に把握する方法について検討する必要がある。
			(3) 実際の入学者数が入学定員に対して適切か。	8-B-3-1	入学者数の推移がわかる資料	直近5年間の平均での定員充足率は80.0%、令和6年度は85.7%であり、適正といえる。	4		
				8-B-3-2	入学定員(入学者募集要項の抜粋)				
			8-C	専攻科の学習・教育の成果	(1) 成績評価・修了認定の結果から判断してDPIに沿った学習・教育研究の成果が認められるか。	8-C-1-1	成績評価・単位認定状況がわかる資料		専攻科では、修了要件を満たすことによりDPの全項目が達成されるようにカリキュラム及び修了要件を設計している。単位認定及び修了判定においては修了要件を満たしているかが厳正に確認されており、全ての修了生がDPを達成していると言える。また、修了生の学習・研究の集大成と言える特別研究の成果は、概要集としてまとめられるほか各種の学会等で発表されており多くの賞を受賞している。以上のことから、DPIに沿った学習・教育研究の成果が認められる。
	8-C-1-2	修了判定会議において基準に基づき修了認定していることがわかる資料							
	8-C-1-3	専攻科特別研究論文概要集(表紙と目次の抜粋)							
	8-C-1-4	専攻科特別研究論文概要集(研究発表論文一覧の抜粋)							
	8-C-1-5	学会発表等受賞者一覧							
	(2) 学生、修了生、進路先関係者等からの意見聴取の結果から判断してDPIに沿った学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-C-2-1				修了時の達成度評価結果	修了時のDPに対する学生自身の達成度評価の結果では、全てのDPの項目に対して平均90%以上の達成率となっており学習の成果が認められる。卒業生アンケートより8割程度の学生が学習内容が現在も役立っていると回答していることから学習・教育の成果が認められる。また、就職先からの回答も専門的知識・技術力の問いに7割の企業が「高い」「少し高い」と回答しており、学習の成果が認められる。		
		8-C-2-2			卒業生・修了生へのアンケート結果(2023年度)				
8-C-2-3		企業・団体等のアンケート結果(2023年度実施)							
(3) 就職や進学など修了後の進路状況から判断して学習・教育・研究の成果が認められるか。	8-C-3-1	就職状況			進学先としては理工系大学院、就職先としては各種の公務員や製造業に就職しており、APIに掲げるものづくりに適した人材を輩出していると言えることから、養成する人材像に適した進学先・就職先と評価できる。	5			
	8-C-3-2	進学状況							

A. 研究活動の状況	A-A	研究活動の状況	(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	A-A-1-1	研究活動の目的、方針、目標等の規定_地域テクノセンター規則	地域テクノセンター規則により、研究活動の目的、方針等を定めている。	4	4.8	良好と認められる。 根拠資料等から精力的に実施されていると判断した。
(2) 研究活動等の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	A-A-2-1	研究実施体制_学校要覧(設置学科・専攻)	本校では1学科4コース制(本科)、1専攻4コース制(専攻科)の下、教育・研究を進めている。人員は、一般科目に専任教員23名(教授5、准教授8、助教6、特命准教授3、嘱託教授1)、専門科目に専任教員40名(教授12、准教授17、講師1、助教9、嘱託教授1)を配置して教育・研究を行っている。また、教育研究支援組織として、総合情報センター(図書館を含む)、地域テクノセンター、ものづくりセンター、教育研究支援センターがある。これらの施設が教員ならびに学生の研究活動支援を実施している。	5					
A-A-2-2	研究実施体制_学校要覧(教員)_抜粋								
A-A-2-3	支援体制_学校要覧_研究支援組織								
(3) 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	A-A-3-1	論文・口頭発表一覧_地域テクノセンター報(研究成果)	R5年度実績で、論文等53件、口頭発表104件、外部資金受入63件(内、科研費26件、共同研究8件、受託研究6件、受託事業2件、寄附金14件、助成金その他7件)であった。なお、「独立行政法人国立高等専門学校機構紀要等に関するガイドライン」、「紀要発行に係る編集委員会の構成や査読要領に関する方針」により、紀要のあり方を見直し、R6年度から紀要発行をとりやめた(R6.5.20運営委員会承認)。	5					
A-A-3-2	科研費・学術研究助成・共同研究・受託研究・受託事業一覧_地域テクノセンター報(研究成果)								
A-A-3-3	外部資金一覧_教員会議資料R6.4.17(R5年度外部資金受入決定状況)								
(4) 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	A-A-4-1	体制図(地域テクノセンター報_組織)	地域テクノセンターに教育研究部をおき、研究全般の実施状況および問題点の把握、改善に努めている。また、積極的な外部資金獲得、産学連携のための情報発信を行っている。外部資金獲得にあたっては、学内メールにて外部資金公募情報を教員に周知し、外部資金獲得の促進による研究活動の活発化を図った。加えて、校長による科研費申請指導により、採択率の向上させ、研究活動の活発化を図った。公的研究費の使用にあたっては、コンプライアンス研修や研究倫理教育のe-learningを行い、公正な研究活動推進に対する意識向上を図った。	4					
A-A-4-2	改善事例_外部資金公募情報(地域連携係からのメール)								
A-A-4-3	改善事例_校長による科研費申請指導(メール・FD資料)								
A-A-4-4	改善事例_公的研究費に係るコンプライアンス研修(地域連携係からのメール)								
B. 地域貢献活動等の状況	B-A	地域貢献活動等の状況	(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。	B-A-1-1	地域貢献活動の目的、方針、目標等の規定_地域テクノセンター規則	地域テクノセンター規則により、地域貢献活動の目的、方針等を定めている。	4	4.7	良好と認められる。 小・中学校への出張講座をはじめ、地域貢献活動としての公開講座や出前授業については認知度と貢献度は高いと実感できる。前年度本校も出前講座をお願いし、高専の先生の授業を受け、高専に高い興味・関心をもった生徒がいたことも事実である。技術産業等への技術協力や助言についても報道で耳にすることが多い。 根拠資料等から適正に実施されていると判断した。
(2) 地域貢献活動等の目的に照らして活動が計画的に実施されているか。	B-A-2-1	地域貢献活動の方針_地域テクノセンター規則	地域テクノセンター規則の教育研究活動の基本的な方針の項において、地域貢献活動の基本方針として、以下が定められている。「地域の公的な各種委員会の活動などを通して地域貢献に努めるとともに、地域の教育機関などを対象とした教育サービスの提供に努める」	5					
B-A-2-2	公開講座実施計画と結果_地域テクノセンター報(公開講座実施状況_実施計画)	公開講座、出前授業並びに企業内容説明会などを開催すると共に、地域産業等への技術協力・助言を多数実施している。							
B-A-2-3	地域産業等への技術協力・助言_地域テクノセンター報(地域産業等への技術協力・助言)								
(3) 実績や参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。	B-A-3-1	公開講座(化学の学校)_アンケート結果	公開講座に対して高い満足度が得られている。	5					
B-A-3-2	地域への貢献_R5行動計画取組結果報告書(地域テクノセンター部分抜粋)								
(4) 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。	B-A-4-1	体制図(地域テクノセンター報_組織)							

上記の他に本校の教育・研究及び業務運営全般に関するコメントがあればご記入ください。

学業のほかに社会性や一般常識を身につけ、地域を理解するためにも、学生が新聞に触れる機会や場所を増やしてほしい。

自主探究活動は特筆すべき教育活動と考えます。

評議会の話題にあがりました今後の自主探究の展開に期待します。

学習成果の可視化に関して、単に成績証明書ではなく、社会からもその学生の資質がわかるディプロマ・サブリメントの導入検討(未実施であれば)など、また学生自身が年度ごとの達成度(成長度)を確認できるポートフォリオの導入(未実施であれば)などの仕組みがあることが望ましい。

資料が大変細かく細分化されていて、非常に良く報告されている。
計画と有効な活動対応が出来ていると思った。
自主探究の活動は学生が自ら課題を見つけて取り組んでいるので、これからのエンジニアの基礎になると思う。